
ヤンキーママ?

disney boy

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヤンキーママ？

【Nコード】

N4376L

【作者名】

disney boy

【あらすじ】

うちのママは、ちょっと変わったママと言うかヤンキーママです。高校時代ヤンキーのトップだったのです。そんなママが毎日、朝から私の兄、良太の寝ポケット面に雷が落ち、毎朝たいへんです。私は良太の妹の詩織です。ママの名前は美香です。こんな家庭ですがポツポツ毎日暮らしています。

第1話 地獄は朝から・・・？（前書き）

こんな家庭はめったにありませんがこのお話はちょっと怖いけど切なくて感動のファミリーストーリーです。

第1話 地獄は朝から・・・？

「良太！良太！おきろー！！」

朝から壁を突き破るほどの怒鳴り声で良太を起こすママ。

あっいきなりごめんさい。私は妹の詩織です。この毎朝、地獄の怒鳴り声で叫ぶ人はウチのママ。

聞いて驚かないですよ？

高校時代ヤンキーのトップだったヤンキーママ、美香です。さて、次は朝食なだけどまたこれが大変。

朝はなんと言ってもねむいですよね。

そんな中で良太はまた眠ってしまったのでした。

すると、ママは

「こらあー寝てんじやねえよ？」

その大声に起きると思えばまったく無反応の良太・・・すると、ママは・・・

最終手段を使い、

顔に冷え冷えの冷水をかけるのでした。そして、やっと良太は起き、朝食に入るのでした。

私は既に食べ終わっており学校に行く準備万端で兄を待っているのでした。

やっとの事で朝食を食べ終わった良太ですが・・・またまたここからが大変なんですよね？？

歯磨きをしている良太ですが磨き終わって着替えに向かいました。

そしてまた、ママが見に行くことで怒鳴り声が響き渡るのです。

「おい、良〜〜〜太？なんだこの菌みがき粉の飛び散らしは？」

うお〜怖い怖い？

やっと良太の着替えが終わり、私と良太は登校しに行くのです。

やっとママが落ち着ける時間が来ると思っていたら良太の着替えた後のパジャマがママがやらなくちゃいけないのです。

こうして何事も無かったような朝ですがこれが毎日続くと思ったらすごく思いやられます。

しかし、これでママの雷が終わったわけではありません。

地獄はこれからなのです???

第1話 地獄は朝から・・・？（後書き）

今回は、学校でいじめられた良太がママに特訓される？ついに、良太がヤンキーデビューか？

第2話 良太がヤンキーデビュー？（前書き）

エリートな良太がいじめられた？ママには強くなれって言われたけど良太は強くなりたくはなく、またいじめられるのだった。

だが、ある日、良太が驚きの行動に？ついに良太がヤンキーデビューか？

第2話 良太がヤンキーデビュー？

良太が通っている高校は優不高校。

実は良太って成績優秀、頭良いエリート生徒なんだ。

そんなある日、まじめな良太に不満を持つ不良組が居たんだ？（うわぁーなんか怖いこと起こりそ？）

放課後・・・

「おい？ちょっと来い？」と言われ良太はトイレに連れていかれた。良太は疑問と恐怖に追い詰められていました。

「お前、そのまじめっ面が気に入らねえんだよ？」「そして、良太は4、5人の奴らに腹を蹴られたり、顔面を殴られたりして良太の顔は一気に血まみれになりました。

良太はすぐさま、先生の所に行き、事情を話した。

そんなとき、ママは、買い物帰りで学校の前を通ると・・・学校から電話があり、それを聞いたママは、すぐに職員室へと走っていった。

「おい、先生どういうことや？」と聞き、事情を聞いたママ。その時、ママの堪忍袋の尾が切れてものすごい怒りが込み上げてきた。それからママと良太が家に帰ると、ママは「おめえは気にすることはねえ。おめえは普通にしとればいいんや。」といつもながらママらしくないホツとする言葉だった。

【この時、良太は想像を絶するママからの言葉に驚きを見せるであらう・・・】

「ということだ良太、あたいが今日からおめえを喧嘩に強い男にな

つてもらったために鍛えてやるう??」

それを聞いた、良太は「無理だよ」と言っただが

ママは「問答無用??」と気合いの入ったママは誰も止めることが出来ないのです。

次の日・・・?

「おらあゝゝポケットとサボってんじゃねえよ?」

さっそく練習初日からママの雷が落ちていきます。

それに耐えられない良太は・・・「あゝもう嫌だこんなときついし?」と良太が弱気を吐くと、

「おめえ、そんなんやったらいつまでたってもいじめられて弱いままだぞ?」

でも良太は「いいよ、このままで」

ゝ数日後ゝ

ある日、良太は更衣室に呼び出されて前とは違う奴らに殴られたりして良太は今度は先生に言わなかった。

ゝその夜ゝ

「良太?、またいじめられたのか?」

良太は無言に顔をそらした。

「あたいは知らないよ?おめえが強くならねえ限りずっといじめられんだからな?」

その夜、良太は眠れなかった・・・

翌日、良太は朝早くから学校に行き良太をいじめた奴らをグラウン

ドと呼び出しこう言った。

「俺は、もう誰も怖くはねえ。俺に逆らう奴は俺がぶちのめしてやる?」

それを聞いた奴らは、おもいつきり良太に殴りかかってきた。

良太はやはり突き飛ばされた。良太は蹴られ、殴られ、服を破られたりした。

しかし、良太は今までの怒りが一気に発動し奴らにその場にあったプラスチックの棒で奴らの背中を思い切り叩いた。

それにおびえた奴らは走って逃げていった。

奴らは先生に良太にいじめられたと言った。すると、すぐに先生は良太のママに学校に来るよう言った。

ママは、職員室に居た、ケガした奴らを見て、ママはニコツと笑った。

良太が職員室に入った時、先生は良太とママにキツく叱ったが良太は

「いじめる方がわりいんだよ。俺に逆らう奴、いじめている奴は俺がゆるさねえんだよ。」と今までの良太らしくぬ言葉だった。

家に帰った後・

ママは良太に「良太、おめえどうしたんや急にそんな強くなつてえ?」

「べつ、強くなんかなくてねえ。俺はただ、自分の為にやったんだ」

次にママは、とんでもない誘いを良太にするのだった。

「良太？おめえママと一緒にヤンキーにならねえか？」

良太は「ならねえ」（本当はなりたかったんだよね？）

ついに、良太もママにならってヤンキーデビューになるのでしょうか？これが心配です？？

第2話 良太がヤンキーデビュー？（後書き）

今回は、良太がママのヤンキーグループに仲間入りしちゃった？！
ったいどうなっちゃったの？！

第3話 良太がグループ入団？（前書き）

ある日、ママが良太と深夜にどこかへ行っているのを見てしまった私。何にも答えてくれないママが気になって私は、ついに後を着いていくことにした。着いていくとそこには大勢の集団が？一体何が始まるのやら？？

第3話 良太がグループ入団？

「良太????起きろよ?」なんか今までとは違った雰囲気だった。

「うつせえな〜?構うなよババア」

強くなった良太がママに張り合ってるなんて信じられない?とまあこんな感じでいつもと変わらない生活をしています。

〜その夜〜

いつもなら買い物から帰ってきて夕食の準備をしているのに今日はママが9時過ぎても帰ってきません。

こんな事今まで無かったのにどうしたんだろうと思って待っていました。

しばらく待っているとやっとママが帰ってきました。

「ねえなんでこんなに遅いの?」

すると、ママは私の質問に無視して

「今から晩飯作るからなあ」といかにも聞かれてほしくないことから逃げているだけのように見えました。

結局何事も無かったように私は風呂に入りベッドに入りましたが今日の事が気になって眠れませんでした。そして、深夜2時過ぎになると・・・車のエンジンのかかる音がして1階に降りようと良太

の部屋の前を通ると

良太が居ません。

まさかとは思ったけどママと良太は一緒にどこかへ行ったかもと心配していました。

それから帰ってくるのを待っていましたでしたがいつの間にか朝になっていて何事も無かったような朝をむかえていました??

つい、寝てしまった私は思いきってママに聞いてみることにしました。

「ねえ、ママ？昨日良太とどこいったん？」

それを聞くと、ママは冷や汗をかいてました。

これは怪しいと思い、今夜また出かけると言っていたので私はついにママと良太が2人で何をしているのか突き止めることにしました。

危ない覚悟はしているけどなんかちょっぴり怖い？

その夜・・・?

私が寝たのを見計らって　ママと良太は出掛けていきました。

私は、行こうか迷っていたけどやっぱり気になるから行くことに

しました。

車で行ったから私には自転車で行くしかありません？

40分くらいでママの跡を追っているとママの車は狭い道に入
って川に出ました。

車からママ達がおりました。そこにはやはり良太がいました。

(信じられない良太までヤンキーのグループに入るなんて?)

そんなことを言っている場合ではありません。

私は近くにあった公衆便所の後ろに隠れて見ていました。

これから一体何が始まるんだろう・・・?

数分後にたくさんのなにやら黒いマントみたいなをはおった女
子と数名の男子がいる団体が集まってきました。

これを見て、私はやっと分かりました。ママと良太が深夜に出
掛けていた訳が・・・それはこの喧嘩に勝つために?

きっとママはこれで良太に強くなってもらってヤンキーにするん
だわ。

なにはともあれ、いよいよ耳に響き渡るほどの?が鳴りました。

それを合図に一斉に走ってぶつかり合い殴りあいをはじめま
した。

見てるといかにも痛そうで良太がこんなのに耐えられるのか心配していました。

それから勇ましい喧嘩は続き終わりの合図の？が鳴りました。

ほとんどのママ達のグループは倒れていて血まみれになっていました。

ママははっぴみたいなのを相手のトップの人に渡していたけどあれは何を意味しているのか？

ママ達は先に帰ってしまったって私は急いでウチに向かいました。

帰ってくるとママは私に「詩織、どこに行ってたん？」 私はなんと嘘をつこうか迷っていましたがこの際に聞いてしまおうと思いき、素直に「ごめんなさい。」と言い、事情を説明しました。「私、見ちゃったの・・・ママと良太が喧嘩してるとこ。」

すると、ママは「とうとう、バレちゃったか？仕方ない正直に話そう」

「あれはな、ヤンキーが年に一度ヤンキーのトップのトップの座を狙う喧嘩をしていたんだ。あたいは、トップだったから・・・」
「そのため毎日夜練習してたんだよ。」 「内緒にしてて悪かったな。」

私は安心したけど少し心配していました。

良太はこれからも仲間入りしたからママと一緒に喧嘩に行くと思う
と私は毎日が心配になってきました？

第3話 良太がグループ入団？（後書き）

次回は、ママがヤンキーグループをやめちゃう？そして良太にも危険が？一体何が始まるうとしているのか？

第4話 ママがヤンキーグループをやめちゃう？（前書き）

ある日、私は、ママが毎日夜練習に行っていて居ないことは知ってるけど最近家に居るようになった。

私が良太に聞くとママはすごく自分でも悩んでる悩みがあることを知った。

ママがやめちゃう理由とは？

第4話 ママがヤンキーグループをやめちゃう？

ある日、ママがいつもなら夜にどこか行くはずなのに今日はどこにも行かなかった？

「ママ、どうしていつもどっか行くのに今日は家にいるの？」

「ママね・・・もう疲れちゃったんだ」

私は、その意味が分からなかった？

それからママは毎日家にいるようになって私はますます秘密が知りたくなってきた？

私は、ここは良太に聞いてみようと思いい良太に聞いてみた。

「お兄ちゃん、ママ最近なんか変だけどもなんかお兄ちゃん知らない？」

「本当は詩織には言わないように言われていたけど内緒で教えてあげる。ママは体が疲れてもうヤンキーのグループから抜きたいんだって」

それを聞いた私は、

「なんで？まさか前の喧嘩の時に負けてトップの座を相手に取られたからママにも辛いことってあるんだ」

その夜ママはトップの座を取られたこの間のヤンキーグループを

読んで退陣報告をした。

しかし、相手は「そんな勝手なことはさせねえ、まあいいだろう。だが条件がある。お前の息子、良太と引き換えにするなら退陣しろ？」

「そんな勝手な？」

「だったらやめるの諦めるんだな」

ママが翌日まるでうつ病になったかのような顔をして帰ってきた。

ママは泣きながら

「すまねえ、良太。私が辞めるのと引き換えにおめえをくれて？」

あんな強いママがずっと泣き続けていた。

良太が驚くような発言を言った。

「ママ、俺は行くよ。ママのためにも。俺があいつらを倒してやる。」

「そんな。ママのためにそこまで？」

私とママは必死に止めたけど良太は本気だった。どつちやら覚悟はできているらしい・・・

そして、運命の今夜・・・???

第4話 ママがヤンキーグループをやめちゃっつ？（後書き）

ついに次回で最終話？ いったいママと良太はどうなっちゃうのだからか？

最終話 悲しみと熱情（前書き）

良太とママは一体どうなるの？衝撃の結末が始まる？

最終話 悲しみと熱情

運命の夜、私はママと二人で良太の帰りを待っていた。私たちは良太がいつたいどんな事をしているかが・・・

その頃、良太はヤンキーグループと待ち合わせをした。

ヤンキーグループが到着したら良太の顔が一変した。

良太は心の中で「こんなのできっこねえし、やけどママのためにやるしかねえ」と決心した。

「よお、お前が良太か？よわっちい面してんなあ、まあ勇氣は認めてやろう。」

「おっ、おい、おまえら、こんなことして何が楽しい。俺はママのためにおまえらをめためたにしてやる」

「調子にのるんじゃないよ？あの弱虫な女の息子だからって手加減はしねえぞ。」

「ママは泣き虫なんかじゃない？おまえらより強いママだ。」

「そうならどうして逃げたんだ？あの女が弱虫じゃない証拠でもあんのかよ。もしここにきて勝ったら弱虫じゃないってこと認めてやるっ」

ママと詩織は、2時間も経つというのに良太を待っていた。そんなとき詩織が

「ママ、こうやっていつまでも良太をまってるっていつの？ママはそれでもヤンキーで強かったの？そんなんだから弱気になって良太が嫌な思いをすることになるんだよ。良太を助けてあげれるのはマ

「一人だけなんだよ。私はそんなママ、ママじゃないからね」

それを聞いたママはしばらく黙り込んだ。……しばらくすると……

「詩織のいうとおりだよ。ママは良太と詩織の母親なんだからママが行かないと誰も助ける人がいない。」

ママは家を駆け出していった。

その頃、良太は

「はぁ……はぁ……、まだまだ諦めない、ママは絶対に来る」

良太はもう死にそうな身体になっていた。そんなとき……

「おい、調子にのってあたいの良太をいじめないでくれよな。最後の決着をしてやる」

「おお、おつかねえ」

私は良太の所へ走った。

「良太、ごめんな、こんなめにあわせて。」

ママは体の中にある力をフルで決闘をした。私はそんなママの喧嘩を眺めていた。見ているのが辛かった。

それから1時間以上たったかな。ママはグダグタになっていた。

決闘はどうなったのだろう。恐る恐る近づいて聞いた。

「お前の勝ちだ。お前は諦めない心がある。」

「どうしてだ？」

「お前は3人のママだろ。ここでお前をきたきたにしても子供達が

辛くなるだけだからな。それにグループを続けても子供達が心配するだろう、お前の事を。」

私は見た。ママが泣いてるのを。私はこの事を一生忘れない。

ママは私たちに

「良太、詩織、今まで心配とか迷惑かけて本当にごめん。これからはいつでも一緒だよ。」

ママから信じられない言葉が出てきた。

私と良太は「ママはママなりに生きてたらいいんだよ。私と良太はママと一緒にいるだけで幸せだよ。」

その日は家で3人で盛り上がった。

次の日の朝・・・

どたばた…どたばた…

「良太、詩織、起きなさい。遅刻するわよ」

ママにとって新しい日が始まる。生まれ変わったママが新しい人生の始まり。

そしていつの間にかママの口調も変わっていた？

そしていつものように

私と良太は「行ってきまーす？」とママに言った。

ママは「行ってらっしゃい。車に気をつけてね??？」

最終話 悲しみと熱情（後書き）

ヤンキーママはこれで最終話です。

ヤンキーママいかがでしたか？最後はなんとも感動の最後でしたね
??

また新しいお話でお会いしましょう？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4376/>

ヤンキーママ?

2011年3月29日21時20分発行